

事例

①

[公衆災害/物損事故]

管路掘削時に既設分水栓を折損

概要

発生日時：令和7年5月13日

作業内容：バックホウによる管路掘削

事故内容：玉石を掘り起こす際に、玉石が分水栓に接触し破損した。

被害内容：破損個所の住宅1軒が断水

原因と対策

<原因>

- 既設配水管が蛇行していたため、当該掘削箇所の埋設位置を正しく把握していなかったこと。
- 玉石全体を把握せずに掘り起こしたこと。

<対策>

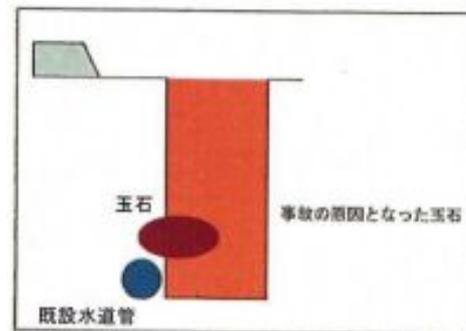
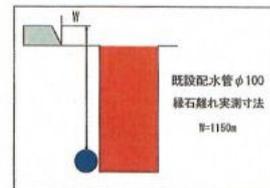
- 玉石が大きい場合は、手掘りにより玉石全体を把握し、地下埋設物に影響を与えないか確認する。
- 玉石が大きすぎる場合は、掘削範囲を広げて対応する。



R7年5月13日

給水栓折損部

既設配水管縁石離れW=1150mm



事例

②

[公衆災害/物損事故] 試掘時に既設給水管を折損

概要

発生日時: 令和7年5月14日

作業内容: バックホウによる試験掘削

事故内容: バケットが既設給水管(PEφ20)に接触し破損した。

被害内容: 破損個所の住宅1軒が断水

原因と対策

<原因>

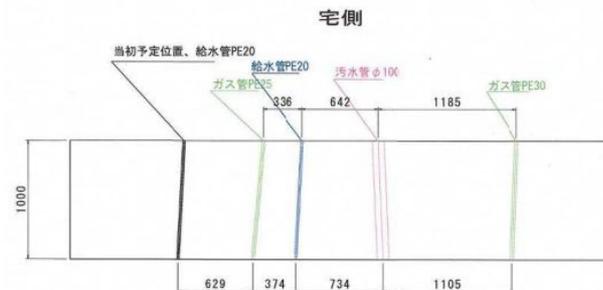
- 給水管竣工図と異なる位置に付設されてはいたものの、近接している下水道管とガス管の間に埋設されていることを考慮していなかったこと。
- 埋設物がある掘削深度であったにもかかわらず、手掘り掘削を行わなかったこと。

<対策>

- 埋設物が確認できない場合は、当該埋設物が確認できるまで手掘り掘削を行うことを徹底する。



給水管φ20



四角は試掘範囲

事例

③

[公衆災害/物損事故] 試掘時にガスを折損

概要

発生日時：令和7年5月15日

作業内容：バックホウによる試験掘削

事故内容：バケットがガス管(φ30)に接触し破損した。

原因と対策

<原因>

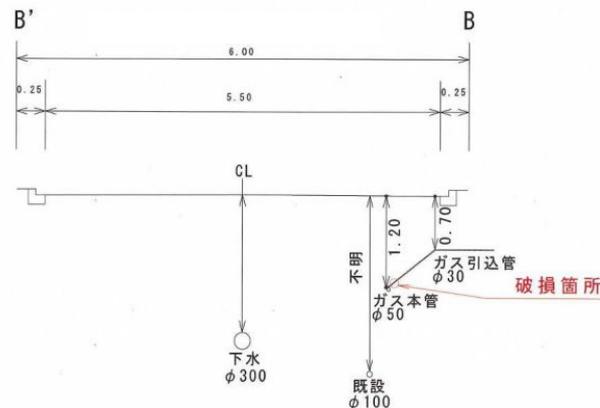
- 先にガス本管を確認していたため、引込管も同じ深さに埋設されていると思い込んだこと。
- 埋設物がある掘削深度であったにもかかわらず、手掘り掘削をしなかったこと。

<対策>

- 掘削箇所で予想される埋設物を作業員全員に周知した上で作業する。
- 重機使用時は、刃先監視員を配置し、十分に注意して作業する。
- 埋設物が確認できない場合は、当該埋設物が確認できるまで手掘り掘削を徹底する。



横断面図



事例

④

[公衆災害/物損事故] 管路掘削時にガスを折損

概要

発生日時：令和7年5月19日

作業内容：バックホウによる管路掘削

事故内容：バケットがガス管(φ25)に接触し破損した。

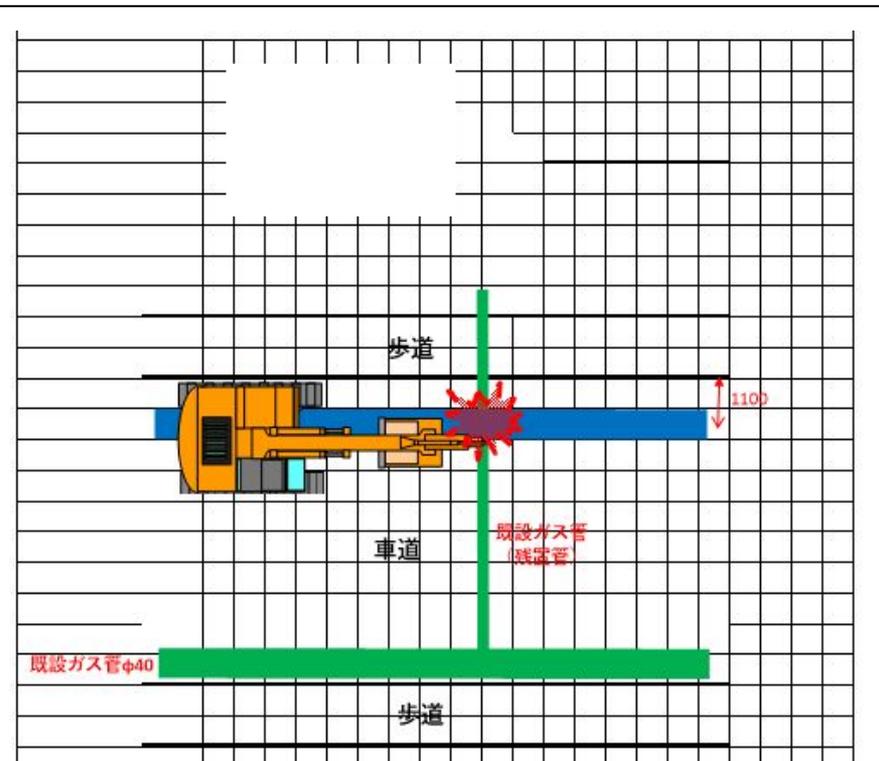
原因と対策

<原因>

- 重機誘導員を配置していたが、ガス埋設図面に記載のないガス管(残置管)が埋設されていたため、損傷した。

<対策>

- 図面に記載のない管であり、対策は難しいが、地山の色や地質の変化を注視し、作業を進める。



事例

⑤

[公衆災害/物損事故] 管路掘削時にガスを折損

概要

発生日時：令和7年5月21日

作業内容：バックホウによる管路掘削

事故内容：バケットがガス管(φ25)に接触し破損した。

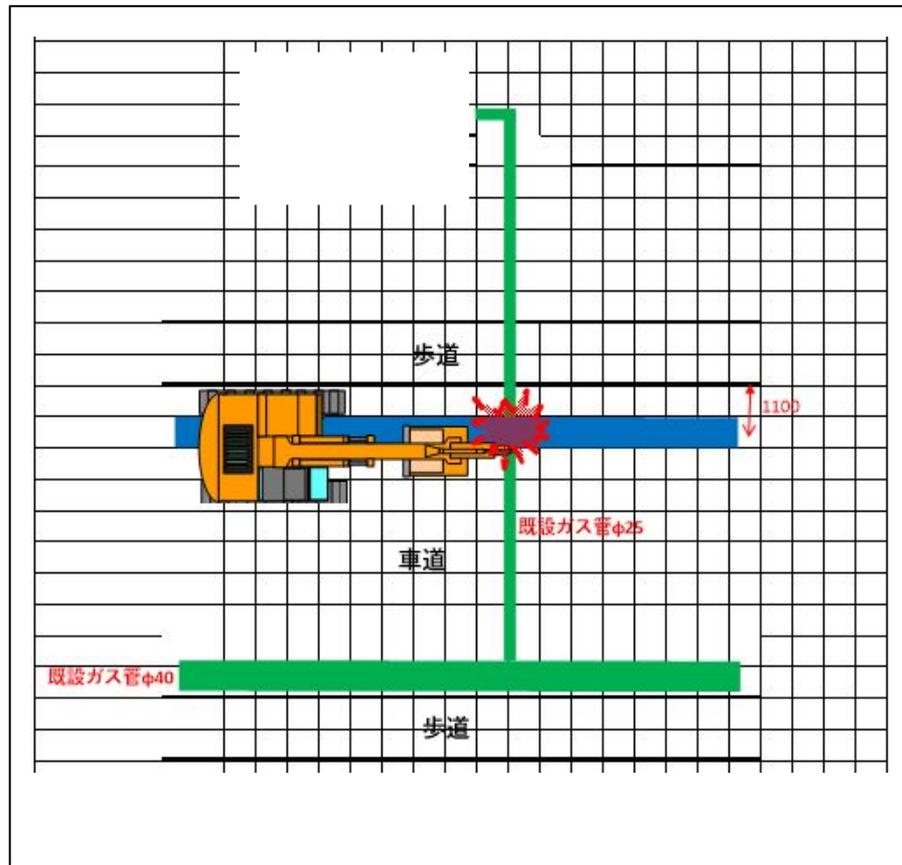
原因と対策

<原因>

- 試掘にてガス管の埋設深度を確認していたが、重機による掘削を行い、人力による確認作業を怠ったこと。
- 重機誘導員を配置していたが、誘導のミスがあり所定の深さ以上にバケットが下がってしまったこと。

<対策>

- 工事区間内のガス管の位置及び深さを必ず目視確認する。



事例

⑥

[公衆災害/物損事故]

ダンプトラックによるNTT柱の折損

概要

発生日時：令和7年6月11日

作業内容：ダンプトラックが転回のために後進

事故内容：ダンプトラックがNTT柱に接触し折損した。

原因と対策

<原因>

- 運転手の後方確認が不十分だったこと。
- ダンプトラック後進時に、誘導員・合図者を配置しなかったこと。
- 作業前打合せ時に決めた転回場所を守らなかったこと。

<対策>

- ダンプトラック後進時は誘導員を必ず配置する。
- 運転手は、目視等で周辺の安全確認を徹底して行う。
- 転回は、事前に定めた場所で行う。支障物等に別の場所で行う場合は、必ず誘導員を配置して行う。



事例

⑦

[労働災害/人身事故] トラックから転落し骨折

概要

発生日時：令和7年6月27日

作業内容：4tユニック車による消火栓積込み作業

事故内容：荷台の上で作業中の被災者が吊荷に押され転落した。

被害内容：右腕肘骨折、左腕肘の剥離骨折

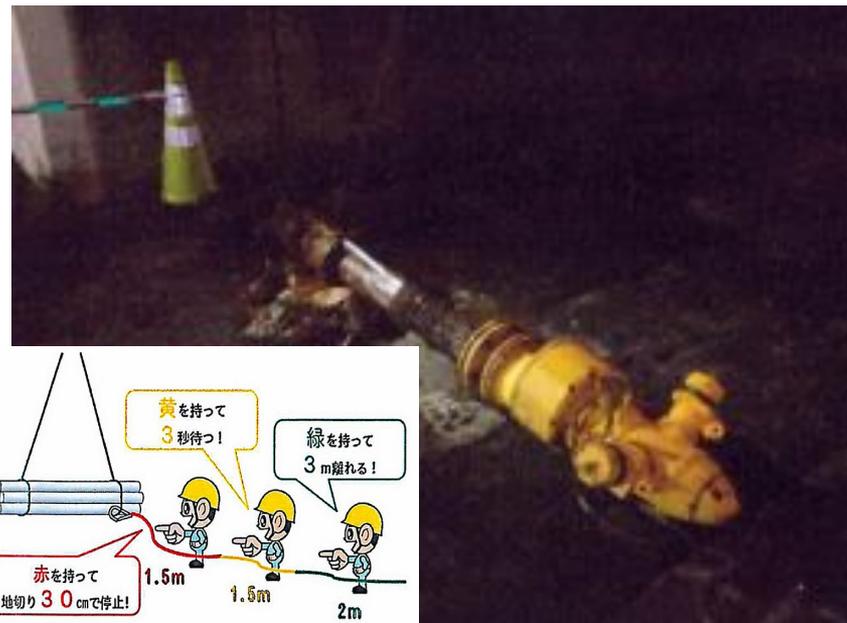
原因と対策

<原因>

- 誘導ロープによる補助を行っていたものの、消火栓と引出管をつなげたまま積込作業をしたため、バランスが悪く作業員が押されてしまった。

<対策>

- 消火栓と引出管は切り離して、それぞれ積み込む。
- ひとりで作業せず、複数人で作業する。



3・3・3運動
(厚生労働省ホームページ)

事例

⑧

[公衆災害/物損事故]

塗装工事にて一般車両及び塀を損傷

概要

発生日時：令和7年8月22日

作業内容：消火栓塗装

事故内容：消火栓の上塗り作業中に塗料が飛散し、地先の一般車両及び塀に塗料が付着し損傷。

原因と対策

<原因>

- 風が強いにもかかわらず作業を行ってしまったこと。
- 養生を行っていなかったこと。

<対策>

- 風の強い日には施工しない。
- 養生を徹底する。



事例

⑨

[公衆災害/物損事故]

管路掘削時に配水補助管を折損

概要

発生日時：令和7年8月28日

作業内容：バックホウによる管路掘削

事故内容：バケットを切替予定箇所の配水補助管φ50に接触させ破損した。

被害内容：事故により、7件断水

原因と対策

<原因>

- 試掘にて埋設位置を確認していたにもかかわらず、埋設管に近接しても手掘りをせずに、重機による掘削を継続したこと。

<対策>

- 埋設物を目視確認するまでは、人力による掘削とする。
- 作業の指揮系統を明確化し、危険箇所を施行箇所ごとに作業者全員に周知する。
- 当日の作業箇所の埋設図を掲示し、建設機械オペレーターが常に確認できる環境にする。



折損箇所

事例

⑩

[公衆災害/物損事故]

宅地内掘削時にガス管を折損

概要

発生日時：令和7年9月1日

作業内容：バックホウによる管路掘削

事故内容：バケットがガス管(φ25)に接触し破損した。

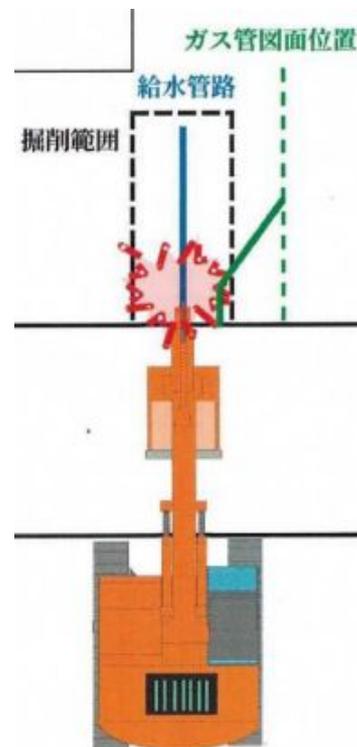
原因と対策

<原因>

- ガス管がガス埋設図面どおりの位置に埋設されていないため、バケットが接触し破損してしまった。

<対策>

- 埋設物付近の掘削は人力により行う。
- 埋設物が確認できない場合は、人力掘削の範囲を広げ、埋設物をたどるように掘削を行う。
- 図面と異なる位置に埋設されている可能性があることをより一層意識し、作業を行う。



事例

⑪

[公衆災害/物損事故]

管路掘削時に既設配水管φ350を折損

概要

発生日時：令和7年9月2日

作業内容：バックホウによる管路掘削

事故内容：バケットが既設配水管(φ350)に接触し破損した。※事故による断濁水は無し。

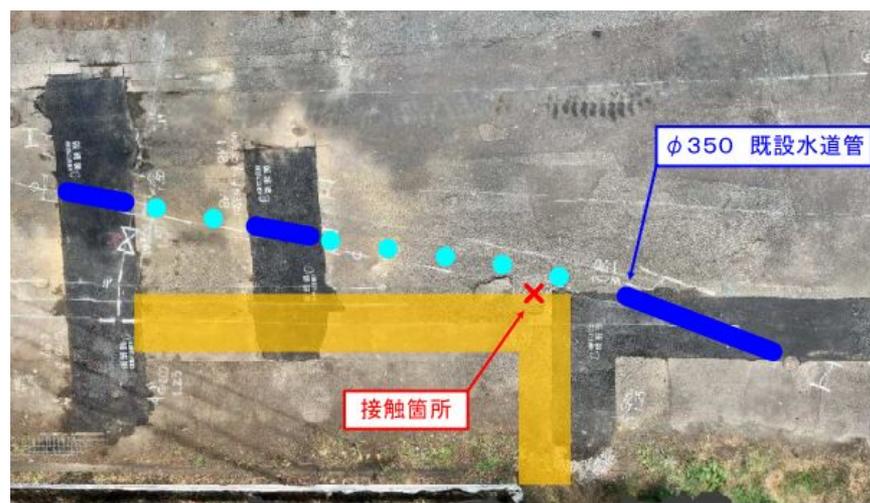
原因と対策

<原因>

- 礫質土のため手掘りから機械掘削に変更し掘削していたところ、試掘等により既設管の埋設位置を確認してはいたものの、接触箇所において想定より埋設位置がずれており、接触した。

<対策>

- 埋設物のマーキングを徹底する。
- 作業前日・当日に埋設物情報を作業員全員に周知する。
- 手掘りによる埋設物の確認を徹底する。
- 人力作業が困難な場合は、金属探知機等を使用し埋設物の確認を行う。



事例

⑫

[公衆災害/物損事故]

試掘時に既設給水管を折損

概要

発生日時: 令和7年9月3日

作業内容: 手掘りによる試験掘削

事故内容: 手掘りによる試掘中、スコップを刺しこんだところ、既設給水管(φ25)に接触し破損した。

被害内容: 破損個所の住宅1軒が断水

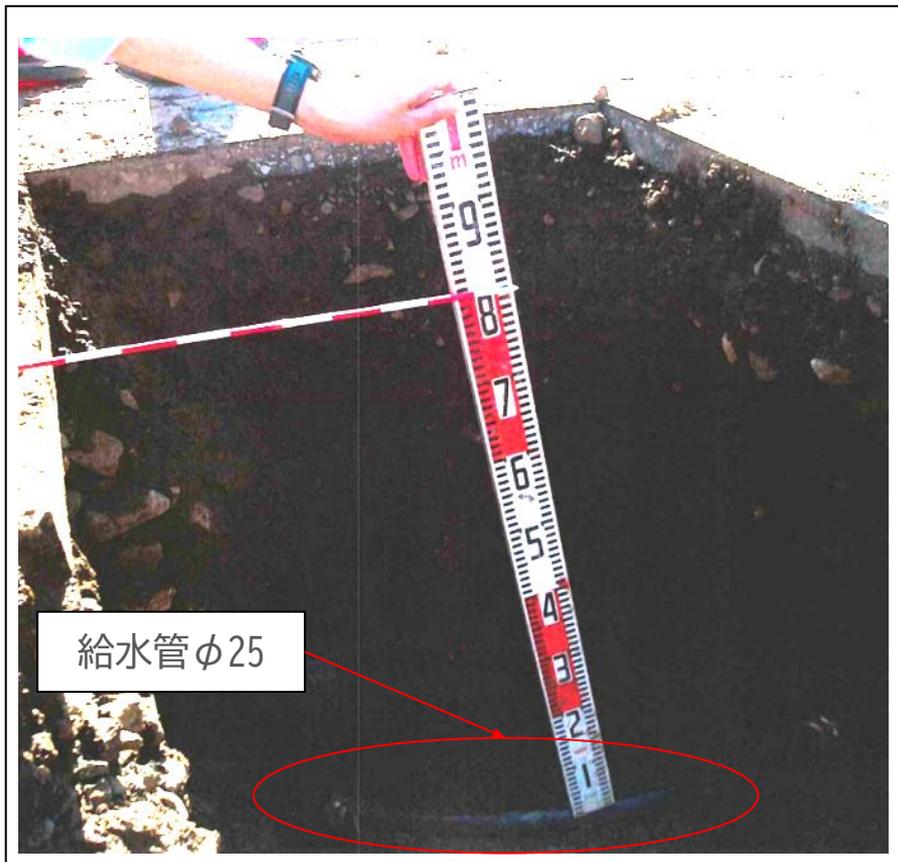
原因と対策

<原因>

- 給水管の土被りが浅かった(80cm)に加え、土質が玉石混じりのためスコップを勢いよく刺したところ、折損してしまった。

<対策>

- Pe管はスコップでも破損してしまうことを意識する。
- 埋設物の近接箇所では、その有無を探りながら作業し、スコップを勢いよく刺さない。



概要

発生日時: 令和7年9月3日

作業内容: バックホウによる立坑埋戻し

事故内容: アームが架空線(電線)に接触し切断した。

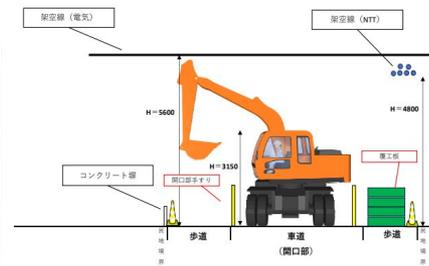
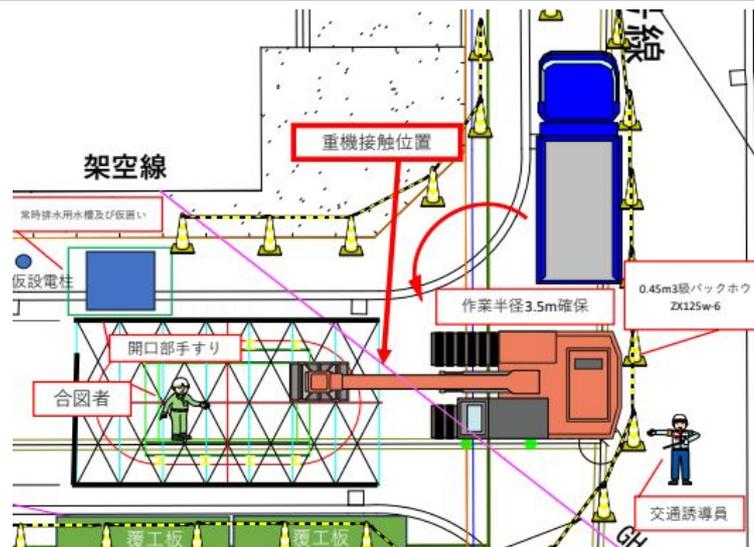
原因と対策

<原因>

- 架空線が低い位置にあるため、三角旗を設置し作業していたものの、重機操縦者の注意不足により旋回時のアーム降下が足りず、接触してしまった。
- 合図者を配置せず作業をしたこと。

<対策>

- 合図者を配置する。
- 重機操縦者は、旋回時に架空線手前で停止し、合図者の合図を確認した後、旋回するよう徹底する。



事例

⑭

[公衆災害/物損事故]

管路掘削時に配水補助管を折損

概要

発生日時: 令和7年9月12日

作業内容: バックホウによる管路掘削

事故内容: バケツが配水補助管φ50に接触し破損した。

被害内容: 事故により、24件断水

原因と対策

<原因>

- 試掘により位置を確認済みではあったが、重機オペレーターと手元作業員の連携がとれておらず、人力で位置確認をする前にバックホウで管付近を掘削し、接触した。

<対策>

- 作業前に埋設物の位置を再度確認する。
- 重機オペレーターと手元作業員は、情報共有しながら作業を進める。
- 埋設物付近を掘削するときは、人力掘削を徹底する。



Peφ50破損状況

事例

⑮

[労働災害/人身事故] トラックから転落し骨折

概要

発生日時： 令和7年9月22日

作業内容： 10tダンプへの大型土嚢積み込み作業

事故内容： 荷台の上で作業中の被災者がバランスを崩し
転落した。

被害内容： 右肩甲骨の骨折(ひび)

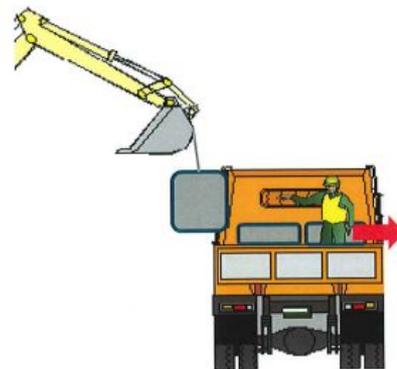
原因と対策

<原因>

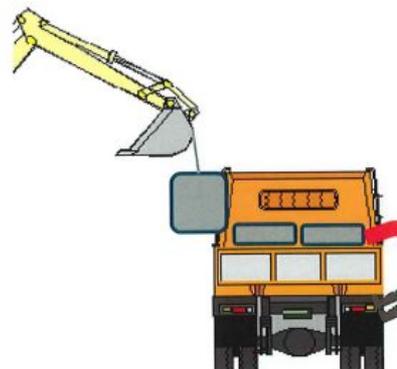
- 被災者はダンプトラックの荷台上で合図をしていた際、自分の立ち位置を変えるため後ろに下がってしまい、荷台の枠に引っ掛かりバランスを崩し落下した。

<対策>

- 作業員は、荷台に資材等を積み込み・吊下ろしする際、その都度乗り降りする。
- どちらか片方のあおりをあげて転落防止対策をする。



荷台上で合図を行っていた。
自分の立ち位置を移動しようと後ろ
にさがってしまいダンプの荷台にひっ
かかりバランスを崩し転落



ダンプの荷台よりバラン
スを崩し転落
単管バリケードの上に
背後から落下した。

事例

⑬

[労働災害/人身事故]

後進したタイヤローラに轢過され骨折

概要

発生日時：令和7年11月25日

作業内容：タイヤローラによる舗装転圧

事故内容：住民対応のため作業区域内に進入した交通誘導警備員がタイヤローラに轢過され骨折。

被害内容：→右鎖骨近位部ほか8箇所骨折

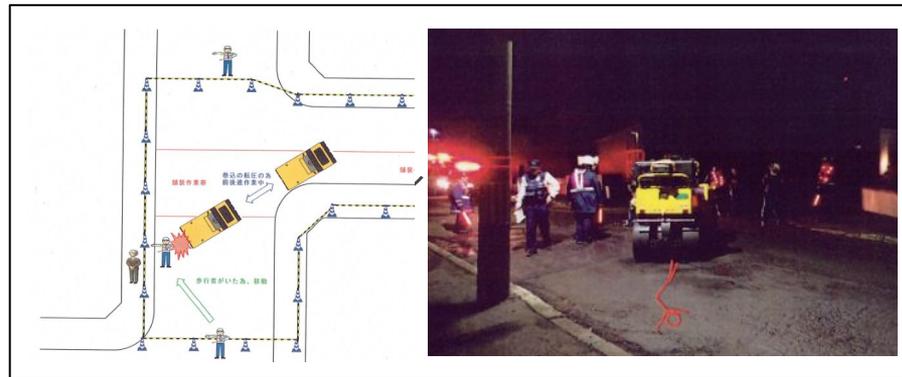
原因と対策

<原因>

- 事故発生時は日没後で、視界が悪い状況であったこと。
- タイヤローラにはセンサーが備えられていたが、人と物の区別ができず常時ブザーが鳴るため、警告を無視して後進したこと。
- 交通誘導警備員においては、当初作業区域外にいたが、住民が近づいてきたため、タイヤローラ運転手に合図なく作業範囲内に進入してしまったこと。

<対策>

- 夕暮れ以降は、作業範囲だけでなく、その周辺も照らすように照明を設置する。
- 建設機械等を動かす差異は、作業範囲内に人がいないことを十分に確認する。
- やむを得ず建設機械等の作業範囲に立ち入る場合は、その機械の運転手との合図を確実にやり、安全を確認する。



事例

⑰

[公衆災害/物損事故]

ダンプトラックによるNTT柱の折損

概要

発生日時：令和8年1月14日

作業内容：残土運搬

事故内容：ダンプトラックが荷台を上げたまま道路に進行し、NTT架空線を引っ掛けNTT柱を折損した。

原因と対策

<原因>

- 残土仮置場で発生土を堆積した後、荷台の点検を怠ったこと。

<対策>

- 残土仮置場の出入口に高さ制限ゲートを設置する。
- 架空線にケーブルピンチを取り付ける。
- 運送契約業者も含めて安全管理を徹底する。



NTT柱折損

